

ベースレイヤーのパッケージ： 改善点と今後の課題

キャプリーン・ベースレイヤーが初登場した1985年当時、製品は赤、白、青のプラスチック袋にそれぞれ同色の説明書付きで入っていました。製品を汚れや損傷から守り、なおかつ開閉しやすいようにというのが狙いでした。けれどもこのパッケージの状態ですべて店頭で適当な数を陳列するには、売り場面積が余分に必要だけでなく、環境面でも多くの無駄が出ました。そこでこの無駄を削減するために、袋の裏側に袋の再利用を促す説明文を印刷しましたが、これを威圧的に感じたお客様には受け入れられませんでした。



© Patagonia, Inc.

90年代のはじめには、再生紙を使った袋に切替えました。けれどもこの袋は耐久性に問題があったために破れてしまいました。

その後に外部のコンサルタントと協力して開発したのが、基本情報を印刷した紙と2本の輪ゴムを使用した小さな「巻き寿司」型のパッケージと、店頭で設置するキャプリーン製品用のラックでした。

私たちは長年にわたって共布のバッグ、メッシュ製バッグ、ナブキンリング、環境に配慮したエッグシェル、ペーパーハンガー、バックル付きウェビング・ストラップなど、他のパッケージ案も検討してきましたが、最終的に「巻き寿司」型がもっとも効果的であるとわかりました。文化的にこのパッケージを受け入れられない国もあり、そうした国々には再生紙を使用した紙箱を使っていますが、大多数の国々へは最小限の梱包で出荷しています。

しかしながらまだ、ほとんどのお客様が知らない、ひとつの大きな未解決の課題があります。私たちが製造する製品は工場から出荷される際、汚れないように一着ごとにプラスチック袋に梱包されています。残念ながら現段階では望ましい代替案はなく、しかもプラスチック袋には再生原料が含まれていません。パタゴニアでは廃プラスチックを利用して製材をする会社にプラスチック袋を提供して、できる限りリサイクルするように努めていますが十分とは言えません。今後も解決策を見いだすべく努力をつづけていきます。

そしてもちろん日本支社にも、一着ごとにプラスチック袋に梱包されたものが届きます。現在日本国内のパタゴニア直営店では、店頭で陳列するときに製品をプラスチック袋から出したあと、袋に付着している紙ラベルやセロハンテープといった成分の異なる要素を取り除いた後の、純粋なプラスチック袋をできるだけ多くプラスチック再生会社に送っています。そうすることでこれらの袋は、ふたたび同じ種類のプラスチック製品を作る際の原料として再利用されています。